

T. H. マーシャルのソーシャルポリシー論におけるスティグマ — 「市民権」「社会階級」「ハイフン連結社会」 —

○ 名寄市立大学 / 日本社会事業大学大学院博士後期課程 松岡 是伸 (会員番号 6093)

キーワード3つ：スティグマ/ソーシャルポリシー/T. H. マーシャル

1. 研究目的

スティグマ(stigma)は個人の社会関係上に規定される概念であり、その影響は恥辱感や屈辱感で見られ、スティグマを負う人々は社会的なアイデンティティを喪失していく。それは個人の社会関係上での影響力(作用)の喪失とも言える。スティグマはソーシャルポリシーでは専ら「恥の烙印」と言われる。ソーシャルポリシーにおいてスティグマは重要な課題であり、資産調査や申請時のスティグマや申請抑制などで例示される。このようなことが制度上で起きていると考えればソーシャルポリシーは意図的に若しくは、無意図であってもスティグマを制度の対象となる人々に付与していることになる。

そこで本研究では、スティグマがソーシャルポリシーにおいてどのように捉えられているのか、若しくはどのような位置づけになっているのかを T.H.マーシャルのソーシャルポリシー論を手がかりとして「市民権」「社会階級」「ハイフン連結社会」の観点から言及することが目的である。

2. 研究の視点および方法

本研究の分析の視点は3点である。第1に、T.H.マーシャルの「市民権」に言及することで「スティグマと権利の剥奪」を分析する。第2に、「社会階級」に言及することで「ソーシャルポリシー上におけるスティグマの様態」を分析する。第3に、T.H.マーシャルの「ハイフン連結社会」の主に福祉セクターに関して言及することで「スティグマの「ハイフン連結社会」に見られる様態」を分析する。本研究の方法は文献研究にて行なわれた。

3. 倫理的配慮

本研究は「日本社会福祉学会研究倫理指針」を順守し実施された。

4. 研究結果

本研究の結果は、主な3つである。第1に、市民権と社会階級は原理的に対立、葛藤する。ソーシャルポリシーを実施するとき、その原理的な対立と葛藤のあるところにスティグマが生じる。それは救貧法などの歴史分析から明確に論じられていた。このことからスティグマが付随する制度を申請・受給する者は、「特殊な人々」と位置づけられる。

第2に、社会階級は不平等システムに基づく。社会階級の平等化は、ソーシャルポリシーの展開において一定の効果を果たす。しかし経済的不平等が是正されても T.H.マーシャルは、心理的な不平等の是正は達成できないという。そのため心理的にスティグマ層として蔑視は残存する。

第3に、「ハイフン連結社会」では、特に貧困と不平等の問題を価値的な問題以上に先鋭的に扱っていた。福祉セクターを中心とした各セクター間の分析ではスティグマの様態の背景となり得る論考が重ねられていた。例えば、福祉セクターが明らかに「貧困の予防」に失敗したこと、福祉のイメージの低下などを取り上げており、福祉セクターが他のセクター間において相対的位置（地位）が低下していることを指摘していた。

5. 考察

T.H.マーシャルのソーシャルポリシー論からスティグマを考察した結果、主に3つのことを指摘できる。第1に、市民権の承認のうえでソーシャルポリシーは実体概念として展開されるが、その過程でモラルディレンマを生成する。このモラルディレンマは、資産調査や制度自体の印象の悪さなどで鮮明に見られる。よって現代においてもコミュニティの成員として公平に保持する市民権を有しながら、実質的に権利を剥奪されるようなモラルディレンマがあり、それを可能としているところにスティグマが存在していると考察する。

第2に、ソーシャルポリシーが社会階級における不平等の是正に効果をあげても、心理的な不平等を解消できないことが明らかとなり、心理的な階級意識のあるところにスティグマが存在する。これらは不平等の問題に通じている。

第3に、「ハイフン連結社会」における福祉セクターの相対的位置（地位）の低さにはスティグマの存在がある。それは第1と第2の点で指摘したことが福祉セクターの相対的位置（地位）の低下につながっているためである。

以上のことから T.H.マーシャルのソーシャルポリシー論からスティグマを考察することにより、スティグマは市民権を実質的に剥奪するような効果を持ち、それらの延長線上に「ハイフン連結社会」における福祉セクターの相対的位置（地位）の低さが見られた。

【文献】

- ・ Marshall.T.H(1963) Sociology at the Crossroads and Other Essays , Heinemann (=岡田藤太郎・森定玲子 訳 (1998)『社会学・社会福祉学論集—「市民資格と社会的階級」他』相川書房)
- ・ Mashall.T.H(1975) Social policy in the Twentieth Centuy (4th ed.) , Hutchinson(=岡田藤太郎 (1981)『社会（福祉）政策—二〇世紀における』相川書房)
- ・ Marshall.T.H(1981) The Right to Welfare and Other Essays , Heineman Educational Books(=岡田藤太郎 (1989)『福祉国家・福祉社会の基礎理論—「福祉に対する権利」他論集』相川書房)
- ・ Spicker.P (1984) Stigma and Social Welfare , Croom Helm(=西尾祐吾訳 (1987)『スティグマと社会福祉』誠信書房)